

予算特別委員会委員として集中審議に参画

農政環境 持続可能な竹林整備の推進を

Q 小型自走式竹破碎機の有償貸出による県民の竹林管理・里山整備支援を提案するが、ご所見を伺う。

A 竹の定期的伐採と、その竹の利活用により持続的な整備の取組が必要。県では整備や利活用に必要な竹破碎機等の資機材の導入、リース料等を支援し、県民主体の活動を推進している。この事業を活用し、宍粟市や丹波市では竹破碎機の常時貸出を行っている。これらの好事例のPRにより現行事業の活用を進め、持続可能な竹林管理、里山再生を支援する。

県土整備 都市計画道路神戸三木線の整備を急げ

Q (都)神戸三木線の整備に向けた三木市との検討の状況、課題、今後の取組について、ご所見を伺う。

A 県市検討会では、(都)神戸三木線を整備した場合の効果を確認。三木市が検討する(都)広野自由が丘線との接続を含め、現状交通量・渋滞状況を踏まえた車線数の見直し等、**抜本的な都市計画変更が課題であり、変更には三木市の主体的な取組が必要で、市との連携強化が不可欠**である。今後は次回の社会基盤整備プログラムの改定に向けて具体的な交通改善案を検討し、**三木市と都市計画の見直し案やそれに基づく優先整備区間の検討等**を行う。

県土整備 防災公園内の地域資源活用

Q 県立三木総合公園内にある御坂サイフォン脇の管理道を常時開放(通行可能に)し、サイフォンの頂上付近の野球場駐車場を改良すべきだと考えるが、ご所見を伺う。

A 三木市で検討中の**フットパス事業の大きな目玉になるであろう御坂サイフォンの管理道の常時開放(通行可能)を、管理者の東播用水土地改良区と協議したい**。三木市、東播用水土地改良区、地元自治会等とルートを検討し、野球場駐車場の改良等も実施する。防災公園が地域の活性化や観光振興に資するように努めたい。

企業庁 青野運動公苑の利用促進

Q ゴルフを始める若者や女性が増えている。アオノゴルフコースについて、コロナ禍での利用客状況やパブリックゴルフ場としての特色ある取組等について伺う。

A 令和2年度の利用状況は、コロナ禍で一時的激減したものの、ゴルフのプレー自体は屋外で行うもので、3密が避けられ感染リスクが低いとして、夏場以降は前年を超える状況まで持ち直している。変動料金制導入やプレー人数の弾力化、おもてなし対応、ジュニアや女性を呼び込む、お得プランの設定等に取り組んでいる。

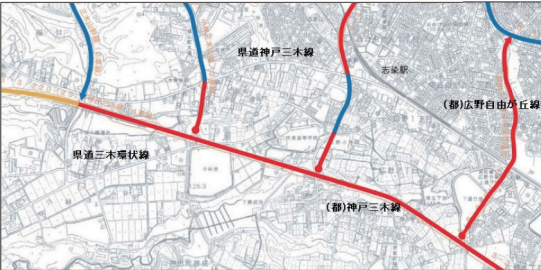
【コメント】**三木市や地元住民の思いが「(都)神戸三木線整備」への更なる推進に繋がったことは意義深かった**です。また、他の質問の答弁中、県道神戸加東線の**桃坂BPや東播磨道等の用地取得が完了**したとの朗

農政環境 山田錦の優位性維持を

Q 地元産米に拘る傾向など山田錦の優位性が揺らぎ、生産地維持の危機に直面している。生産体制維持のために早急な取組が必要だが、ご所見を伺う。

A 品質の確保に取り組んできた。**兵庫県が育種家種子を所有していることなどが知られていない**。他府県と違う打ち出して、山田錦のブランド強化を図っていきたい。

★ 山田錦生産体制の維持・再構築の戦略と併せて、**北播磨テロワール構築を念頭に置いた戦略**とすべき。



★**次回の社会基盤整備プログラム改定で事業着手の位置づけを全力で目指したい**。

県土整備 防災道の駅の整備推進

Q 災害支援都市網の構築に向け、防災道の駅について、県下の現在の認定状況、県の考え方や今後の取組を伺う。

A 国の防災道の駅の認定制度では、今年度末予定の初回認定で、県内では朝来市の道の駅「但馬のまほろば」が認定候補。県としては認定を増やしていく必要がある。**市町と連携して防災道の駅の整備を推進し、県の防災体制の強化を図る**。

企業庁 情報公園都市の次期整備

Q ひょうご情報公園都市の次期整備について、課題認識とその対応策、そして三木市との調整の論点を伺う。

A 高速通信環境の構築や脱炭素社会への対応等に課題があるが、道路整備等周辺道路環境の改善については、交差点改良・山陽道側道の活用や**県道志染バイパスの早期完了等を道路管理者に働きかけていく**。道路等のインフラ整備を担う三木市とは、計画、費用負担及びスケジュール調整が不可欠となる。

報もありました。ひょうご情報公園都市については、現状の渋滞・アクセス問題を質しました。本会議・予算特別委員会を通じて、**この4年間の兵庫県と三木市の連携・協調の取組と大きな成果を確認**できました。

兵庫県議会・政務活動レポート

県政PRESS

— ケンセイプレス —

発行：兵庫県議会議員 村岡まゆこ 〒673-0413三木市大塚2-1-51 TEL 0794-82-3313/FAX 0794-82-3355
経歴：1978年8月6日生（42歳）/別所中・小野高・立命館大（法学）・院（修士）/平成29年8月初当選（2期目）

兵庫県議会議員

村岡まゆこ

2021.05
春特別号



ポストコロナ時代 新しい兵庫づくり

総額4兆6068億円に上る令和3年度県予算案が、第353回定例県議会で原案の通り可決されました。

デジタル化の加速、産業構造の転換、地方回帰、ポストコロナを見据えたすこやか兵庫の実現を展望しつつ、安全安心、交流の新展開、兵庫の強みを生かした産業の育成などを

重点施策として編成されています。特に、新型コロナウイルス対策では、感染防止策の徹底を図りつつ医療提供体制の改善、感染者の入退院の円滑化などのきめ細かな対応策が盛り込まれています。

在宅育児手当制度の創設など自民党県議団による政策提案が数多く事業化されました。

総額4兆6,068億円 令和3年度予算案を原案の通り可決

予算総額は、過去最大となる4兆6068億円。これは、コロナ禍に苦しむ中小企業等への8千億円の制度金融を確保したことによるものです。

税収減やりくり対応

歳入では、県税等の収入は、コロナの影響で前年比919億円の減となりました。当初、2千億円に上る税収不足が予想されていましたが、地方交付税の増（849億円）と特別減収対策債（146億円）によって収支均衡を図った内容となっています。

また、県の借金である県債残高は震災関連約2900億円、行革推進債等2300億円と高い水準にあり、令和4年度から9年度にかけて総額330億円の収支不足が生じると試算しています。

地域創生交付金 25 億円

一方歳出面では、すこやか兵庫枠12.5億円、リーディングプロジェクト特別枠5億円、地域創生枠として総額50億円、このうち県民局の新規拡充事業の枠として10億円が計上されています。

北播磨県民局関係令和3年度主な事業

1 「農」と「食」の魅力づくり

農業の競争力を高め、北播磨の「農」と「食」の魅力を広く発信。

・北播磨の特産日本酒PR発信事業
・新産地育成に向けた新品種チャレンジ事業

2 交流・関係人口の拡大

魅力を体験するツアーの実施を通じて魅力を発信し、交流人口、関係人口を拡大。

・魅力体験ツーリズム
・JR加古川線、神鉄粟生線、北条鉄道の利用促進、活性化事業

3 人が集う地域づくり

ふるさと意識の醸成を図り、地域の誇りを持った人材を育成する。

・北播磨「山田錦」語り部活動の支援
・若者の北播磨企業への定着促進事業

4 安全安心の創出

住民、事業者、行政が力を合わせ安全安心に暮らせる地域を創出。

・北播磨圏域認知症対策事業
・自主防災組織パワーアップ事業
・農村地域見守り隊育成

コロナ対策で新規事業

- 入院医療機関への支援
- 外来医療体制の確保
- ワクチン接種体制の構築
- 保健師バンク事業の実施
- 社会福祉施設の維持や受け皿等の確保
- コロナ感染症に対応した心のケア支援の実施
- 生活困窮者への支援
- 新技能習得訓練事業
- がんばるお店お宿応援事業
- 緊急対応型用創出事業

総務常任委員会副委員長として

昨年、の常任委員会委員の改選に伴い、総務常任委員会副委員長を拝命致しました。

総務常任委員会では、「ポストコロナに向けた社会変革」、「兵庫五国『地域創生』の実現」などに取り組んで参りました。また、行財政構造改革による取組の成果を生かしながら、持続可能で適切な行財政運営の維持、市町との連携、大規模災害への万全の備え、男女共同参画計画の推進に向けた政策形成に努めてきました。



県市協調の主な取組実績・成果

ひょうご情報公園都市の次期整備

人口流出の防止や市内転入の促進には、安定した収入を得られる雇用の場の確保が必須です。雇用創出の鍵として期待される「ひょうご情報公園都市」について、三木市の熱意と継続的な働きかけにより、県も三木市とともに未開発区域の整備に取り組むことに。雇用創出の他、三木金物産業や地元企業等の活性化に繋がる企業誘致が期待されます。

県立総合射撃場(仮称)の整備

鳥獣害対策として狩猟人材育成に必要な射撃場の不足が課題でした。三木市のご尽力で、吉川町にある県有地に、県立総合射撃場(仮称)が整備される運びになりました。

事業費は総額約35億円。総合射撃場としては国内最大級で、山田錦を守るため前代未聞の鉛対策。国内外の競技大会も開催可能で、地域への波及効果も大いに期待されます。

「都市計画道路神戸三木線」の整備

県道神戸三木線(現道)の神戸電鉄緑が丘駅～小林東交差点間の渋滞問題は深刻です。その解決策として期待される、現道の南側に計画されている都市計画道路神戸三木線の整備は、三木市や地元住民の悲願です。

40年以上も前の計画ですが、県市協調により、事業化に向けた環境整備が始まり、未来に向けて歴史的な一歩に。

山田錦支援による日本酒の商品開発

県は令和2年度6月補正予算により、令和2年度山田錦等持続的生産応援事業(需要開拓)を実施。この事業で、稲見酒造(株)のご協力により純米大吟醸酒(生酒)を新商品開発。三木市成人式の記念品等に使われています。(「MIKI20」/写真提供:稲見酒造(株))



コロナ対策としての水道料金免除

県企業庁では市町に対し水道用水供給事業を展開。昨年、県営水道を供給している市町がコロナ対策として水道料金を減額した場合に限り、県営水道料金を3ヶ月免除して支援。この取組を契機に、自治体の水道料金減額の動きが広がり、企業庁の減免額33億円に対し、三木市を含む24市町が総額約110億円の減額し、県民に安心を提供できました。



第353回定例 兵庫県議会 一般質問に登壇

令和3年(2021年)2月25日(木)

県の令和3年度県予算案を審議する第353回定例県議会、一般質問に登壇致しました。コロナ禍では、コロナ対策やポストコロナ社会への取組について、地方自治体の首長のリーダーシップと地域力に、県民の注目が集まりました。こうした視点に立って、県市協調に主な取組実績を中心に、三木市の地域資源を生かした活性化のあり方を質しました。



県広域防災センターを人材育成拠点に

Q 県広域防災センターを全国的な防災人材育成とする今後の取組：同センターの機能拡充に向けた今後の取組は？また防災庁創設との関連性は？

A 知事：全国的な防災人材育成拠点の形成を目指す



し、宿泊施設の整備を進めるとともに全国の防災士を対象とした上級研修コースを新設する等、広域防災センターの機能強化を図っていく。

また、防災庁設置への関心が高まる中、防災公園に同庁の西日本拠点をと本県も提案。関西広域連合として同庁設置を国に働きかけていきたい。今回の取組はその一歩として非常に重要。

災害支援へBOSS導入を

Q 防災対策・災害支援体制の構築：本県と県外自治体で共有できる防災情報システムが未整備。全国の自治体で導入されているBOSSの導入を要望するが積極的検討は？

A 防災監：BOSSは職員の行動を支援するシステムで、その機能等は情報共有等を目的とした本県のフェニックス防災システムとは異なる。本県では災害対応の実践的な手引書の作成を進めており、その効果を高めるためにもBOSSの活用を検討したい。

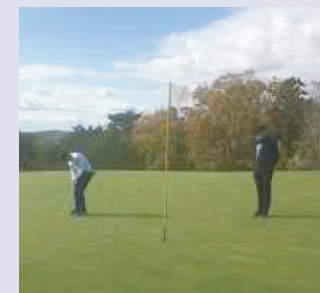
※【災害対応工程管理システムBOSS】事前防災から復興完了までの災害対応工程(マニュアル)が、デジタル化・標準化されたシステム

Q ゴルフツーリズム戦略の展開方策：本県の地域・観光資源であるゴルフの活用と、県下各地域への波及効果について今後の展開方策は？

A 産業労働部長：本県のゴルフ場数は全国2位。コロナ禍で若者のゴルフ支出額も増え、インバウンド回復も考慮するとゴルフツーリズムは大きな市場。北播磨県民局で開発しゴルフ

ゴルフツーリズム全県に

ツアーを全県展開するため在日外国人向けのテストツアーを実施した。今秋開催の国際商談会に合わせツアー体験に関係者を招待する。PRを通じ国内外市場で兵庫の存在感を発揮する。



次代を見据え集積機能をフル活用

Q 県産山田錦振興戦略の推進：コロナ禍終息後の振興戦略は？

A 知事：山田錦活用の新需要開拓、新商品開発支援、本県独自の物語や優位性を国内外へ示す戦略的なPR、新たなブランド価値づくり、更に県内直

山田錦の反転攻勢へ

売所等での日本酒購入促進支援等により、日本酒や山田錦の需要回復拡大につないでいき、県産山田錦のブランド強化を図る。



県立総合射撃場の役割は

Q 県立総合射撃場(仮称)の整備：当該施設整備が果たす役割と今後期待される波及効果は？

A 環境部長：3種類の標的射撃場、2種類のクレイ射撃場に加え、巻狩実習・わなの実習フィールドも備える当該射撃場は、全面回収可能な鉛対策の強化で全国屈指の安全かつ高度な射撃場。国内外のクレイ競技大会にも対応可能で、全国からの誘客や近隣周遊についても連携する。狩猟マイスター育成スクールや獣害研修等のソフト機能も充実させ総合的な人材育成を図る。



ひょうご情報公園都市 今後の取組を伺う

Q ポストコロナ時代を見据えたひょうご情報公園都市の次期整備：近年本県の工場立地件数は全国上位で推移し立地面での潜在力は高い。既存開発区域の課題等も踏まえつつ今後の取組は？

A 公営企業管理者：地方回帰やサプライチェーン再構築の動きは新たな産業団地開発の好機。大都市近郊での開発需要が強く、未開発地の活用が課題のひょうご情報公園都市で次期整備に取り組むことに。周辺で既に発生している交通混雑の緩和や山陽道とのアクセス改善が第一の課題で、5G対応の高速通信網の整備、脱炭素社会に貢献できる取組、快適な自転車通勤の工夫等も検討。開発には精力的に三木市と調整を図り、具体の開発計画づくりを進める。